

特集

ライターSの患者さんインタビュー③

「プライバシーに配慮した診療室が決め手」

永久歯がはえてこないという珍しい症例のAさんにお話を伺いました。インタビューの内容をダイジェスト版でお届けします。全文はホームページをご覧ください。

◆矯正治療を始めようと思ったきっかけは？

——上の左右の3番の乳歯がずっと残っていて、虫歯治療で通っていた地元の歯医者さんに高校生の頃調べたら、そこには大人の歯がないということがわかったんです。ビックリしました。その乳歯が抜け落ちたら歯並びはガタガタになっていくので矯正治療をしなくちゃいけないよと言われていたし、それならそうなる前に治療をした方がいいかなと思って矯正歯科を探し始めました。

◆ひるま矯正歯科を選んだ



のは？

——初診相談に行ったら、キレイな医院だな清潔そうではないなと思いました。それと診療室が個室だったということが大きかったです。ひるま矯正歯科はどプライバシーが守られている医院は他にありませんでした。初診相談の時から口の中を診て丁寧の説明してもらえ、たし診療室も安心できるしここで治療しようと思えました。

◆治療はかがでしたか

——最初は本当に痛かった。初めて体験する痛み。つらかったです。でも一週間を過ぎる頃には少しずつ噛めるようになってきました。

◆治療中大変だったことは？

——仕事で接客する時に小さな子が私の口元をじーっと見て指差すんです。「それなあに？」って言われることもありました。赤ちゃんと笑いかけても泣き出す子がいまして、結構ショックでした。でもやっぱり

一番大変だったのは、痛みですね。全通してやっぱり大変だったな、よく頑張れたなと思います。

◆ひるま矯正歯科はいかがでしたか？

——私の場合は珍しい症例だったようですが、こういう形で治療を進めると最初にはっきりとした説明があったので安心して治療に臨めました。

治療の時には、次はこういう治療ですとか、全体の何分の何ぐらいまでできましたよと説明してくれてとてもわかりやすかったです。いつごろゴールだというのが分かるって頑張りました。歯ブラシのやり方は担当衛生士の千田さんに教えてもらいました。きれいに磨けていますよと褒められると嬉しかったです。千田さんのクリーニングは本当に気持ちよくて寝てしまうことがありました(笑)。

痛みに耐えて頑張ったAさん。ニコニコ笑顔が最高に輝いていて、ステキでした！(S)

Aさんの症状について解説します



●初診時の診断：「中立咬合、両突歯列、左側偏位顎」

Aさんは、上顎の側切歯が先天的に存在せずそのスペースに犬歯が移動し乳犬歯が残っている事(乳歯の晩期残存)が特徴的な症例でした。その他は下顎骨が左側に偏位している事で上下歯列の正中がズレており、大白歯部の咬合関係も左右非対称、側貌は上下前歯が前方へ突出していました。

治療方針は、上顎は乳犬歯を抜歯し、下顎は上顎の歯の本数に合わせる事、臼歯関係を左右対称にする事、前歯を後退させて口唇を後退させるために第1小臼歯を抜歯し口唇突出感の改善と咬合の安定を得る方針としました。歯を動かす期間を30ヵ月と予定し治療を開始しましたが、歯の動きが予想より遅く、臼歯関係のズレを改善するのに時間がかかり約35ヵ月の期間がかかりました。治療結果は、上下顎前歯が後退して口唇の突出感も改善、臼歯関係の非対称性や上下歯列の正中のズレもほとんど無くなり安定した咬合状態を得る事が出来ました。



<初診時>



<動的治療開始時>



<動的治療終了時>

